

パシフィック・ワールド号でゆく
ピースボート地球一周の船旅
2024年8月 Voyage118

横浜発着108日間 2024.8.16^(金)-12.1^(金)
神戸発着108日間 2024.8.17^(土)-12.2^(金)



P4-5

旅のハイライト

5夜連続のオーロラ観測チャンス オーロラシーズンの アイスランドへ

Iceland in Aurora Season

P6-7



アドリア海を囲む 美しい自然と歴史に彩られた国々

Adriatic Sea Countries
Surrounded by Beautiful Nature and History

P8-9



神秘の地 マチュピチュ遺跡を訪ねて

World Heritage : Machu Picchu

天空に舞う 光のファンタジー

The Amazing Aurora

さまざまな自然現象の中でも、飛びぬけて美しく、見る者の心をゆさぶる幻想的なオーロラ。
夜空に気まぐれに現れる光のヴェールに包まれる特別な体験は、忘れられない思い出となるでしょう。

オーロラ (イメージ)

5夜連続のオーロラ観測チャンス オーロラシーズンの アイスランドへ

Iceland in Aurora Season

国土の大半は火山地帯に属し、大地の12%を氷河に覆われていることから「火と氷の国」と呼ばれる北欧の島国アイスランド。この地でしか出会うことのできない圧倒的な大自然が訪れる人びとに感動を与えます。さらに、北欧らしいカラフルなレイキャビクの街は、街歩きにも最適！そして夜には、神秘的な光のヴェール・オーロラの観測へ——
昼も夜も、この季節に訪れるからこそ楽しめるアイスランドの魅力が目白押しです。

オーロラ発生メカニズム

オーロラとは、太陽から発せられた「太陽風」と呼ばれる電気を帯びた粒子が地球の極地に吸い寄せられ、大気圏を通過する際に空気中の窒素や酸素と衝突して起こる発光現象。地上からおよそ100~500km上空で発生します。その存在は古代から知られ、神秘的な現象として中国やロシア、ノルウェーなど世界各地で神話や物語として語り継がれてきました。

観測に適したエリアとは

地球上でオーロラが最も頻りに出現するのは、緯度が60~70度付近の「オーロラベルト」と呼ばれる帯状のエリア。北半球では北欧やアラスカ、カナダがこの圏内に属しています。中でもアイスランドは国土の大半がオーロラベルトの中に入っているうえ、他の北欧の鑑賞地と比較して気候も比較的温暖なため、オーロラ観測に最適な環境だといえます。

オーロラ観測を能動的に

陸地でのオーロラツアーは定点観測が一般的であるため、天候の影響を受けることも多く、雨雲ひとつで中止になることもしばしばです。その点、船はフットワークが軽く、オーロラと遭遇するチャンスにも恵まれています。船がオーロラベルトの圏内を航行する際には観測のスペシャリストが乗船し、オーロラの出現する暗れ間を求めてリアルタイムで進路を選びます。この「オーロラに向かって突き進んでいく感覚」が魅力です。

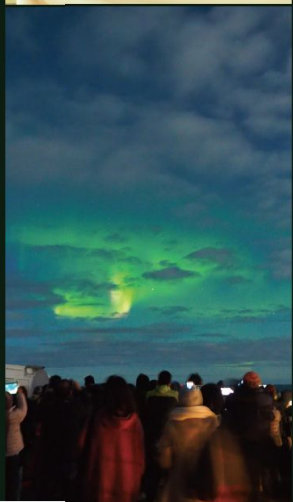


オーロラハンター
アクセル・オスカーソン
Axel Oskarsson

アイスランド生まれ。天文学と地学の見地から気象・磁場データを総合的に分析する、独自のオーロラ遭遇メソッドをもつ。過去4回ピースポートクルーズのオーロラ観測クルーズをコーディネートしている。昼間の船内で開催するオーロラ講座も大人気。

船からオーロラを観測するメリット

周囲に街灯もなく真っ暗な海上は360度を見渡せるため、どの方向にオーロラが出現しても安心です。暖かな船内でオーロラを待つことができるため、身体への負担が少ないことも船のメリットのひとつ。オーロラが出現したら、船内放送でご案内します。また船内ではオーロラベルトを航行する間、オーロラにまつわる世界各地の神話や発生の仕組みに関するレクチャー、オーロラ撮影講座などさまざまなイベントを行います。知識や撮影テクニックを身につけながら観測に臨むことができます。



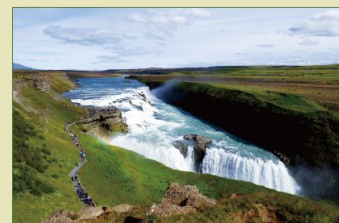
オーロラの形と大きさ

オーロラの形状はさまざまです。それぞれの形は、オーロラの活動レベルや観測位置によって決まってきます。距離の遠いオーロラはアーチ状に見え、オーロラが発生しているポイントに近づくと、揺れ動くカーテン状の姿に変わります。そしてオーロラの真下では、天空から光が降り注いでくるかのようなコロナ状のオーロラに包まれます。

※2016年10月、2019年10月にピースポートクルーズ船上から撮影

アイスランドの昼 惑星「地球」の鼓動を体感する

「火と氷の国」アイスランドには、活発な火山活動や地殻変動、氷河の浸食などの作用によって形づくられた驚異的な風景が広がります。惑星「地球」を感じる、大自然の数々と出会えます。



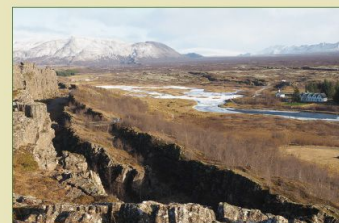
グトルフォスの滝

「黄金の滝」を意味するグトルフォスの滝。轟音と共に大量の水しぶきが舞い上がり、太陽光が差し込むと見事な虹がかけられます。



間欠泉

迫力満点の間欠泉は、まるで地球が呼吸しているかのよう。熱水が轟音とともに勢いよく吹き上げる様子は、まさに圧巻です。



ギャオ

シングヴェトリル国立公園で見られる「地球の割れ目」と呼ばれるギャオ。地球の息吹が感じられるダイナミックな風景です。



ブルーラグーン

世界最大の露天温水施設ブルーラグーン。青みがかった乳白色のお湯が一面に広がる光景は、世界でも類を見ない美しさです。



ピラン (スロベニア)



1



2

1,4 城壁に囲まれた通りに迷い込んでみれば、住民の豊かな生活の息づかいをすぐそこに感じることができます (コトル) 2 アドリア海地域の特徴的なオレンジ屋根の風景 (コトル) 3 古い街並みを利用したおしゃれなレストランも多い (スプリト)

Adriatic Sea Countries

Surrounded by Beautiful Nature and History



イタリア半島とバルカン半島に挟まれたアドリア海は、幾多の民族と文化の交差を見守りながら今日も幻想的な青色をたたえています。4つの寄港地を通じて見えてくるのは、独特の地形が生み出した美しく穏やかな海の恵みを受け、栄えた街々と、昔の姿を残した旧市街の数々。そしてその美しさとは裏腹に、堅牢な城壁都市としての一面がありました。紺碧の海にちりばめられた、きらめく麗しき街々をめぐります。



トリエステ (イタリア)

アドリア海を囲む

美しい自然と歴史に彩られた国々



スプリト (クロアチア)



3



4



コトルでは、16世紀初頭に建てられた趣のある大時計クロックタワーを目印に散策を。



スプリトの古い教会も現役で、今も美しい音色の鐘を高らかに鳴り響かせています。



トリエステでは、多くの文化人たちに愛されてきた老舗カフェが街中にあります。



クロアチアワインの歴史は実は古く、そのルーツは紀元前に遡ります。



アドリア海自慢の新鮮なシーフード料理。歴史的、地理的にさまざまな国の影響を受け、食文化が豊かです。



クロアチアはアドリア海の太陽の恵みをいっぱい浴びたオリーブの産地としても有名です。

PICK UP!

水の都・ヴェネツィアへ街全体に張りめぐらされた運河を渡るゴンドラをはじめ、サン・マルコ寺院やドゥカーレ宮殿など名所がたくさんあります。



神秘の地 マチュピチュ遺跡を訪ねて

World Heritage : Machu Picchu



大自然が広がるアンデスには、紀元前3000年頃から人びとの定住がはじまったと言われています。アンデス文明の系統における最後の先住民国家インカ帝国の時代に「空中都市マチュピチュ」は誕生しました。この場所が持つ魅力とは——ペルー・リマに住み、ペルー文化の研究者を長年続け、日本マチュピチュ協会理事として活躍される阪根博さんとともにクルーズに先駆けてその魅力に迫ります。



阪根 博
Hiroshi Sakane

リマにある「天野博物館（祖父の故・天野芳太郎氏が設立）」の事務局長を務め、ペルー文化の研究・土器・織物の収集・研究者として発掘作業、博物館の運営に携わる。日本マチュピチュ協会理事。



アンデスに興った文明が凝縮された場所

アンデスの山中を分け入った先にあり、空からしか遺跡の存在を確認できないことから「空中都市」と呼ばれるマチュピチュは、ミステリアスで神秘的なスポットです。マチュピチュには、インカ帝国が登場する以前に栄えたさまざまな文明の技術や文化が凝縮されています。それは、鉄がない時代に石を切り出して磨く知恵、滑車もないのに巨大な石を積み上げる高度な技術、そして斜面で作物を栽培する自給自足の工夫。精緻な石組みで築かれた遺跡内を歩くと、暮らしに取り込まれた自然の摂理や、それを可能にした高度な技術を随所に見ることができます。しかし、これだけ発掘調査や科学的な調査が進んでも、未だに多くの謎が残されていることも確かです。

書き換えられる世界史

そもそも長い間、人類の文明としては、旧大陸*で文明が起こった後に、アメリカ大陸での文明が始まった、と考えられていました。しかし近年、リマから北に200キロメートルほどの地点から、紀元前約3,000年頃に築かれたピラミッド状の神殿跡や古代都市が発見され、その定説は覆されつつあります。この時期に造られた大型石造建築といえば、真っ先に思い浮かぶのはエジプトのピラミッドですが、この発見によって、旧大陸と新大陸はほぼ同時期に、まったく別々の土地に暮らす人間たちが似たような文明を築き始めた、ということが証明されたのです。ですから最近の歴史学では、このマチュピチュを造ったインカ文明とマヤ文明を加えた「六大文明」と呼ばれるようになってきています。さらに発掘調査は現在も、世界中で進んでいます。最近の南米の調査では、アマゾンの源流でおおよそ5,600年前の遺跡が見つかっています。この調査が進めば、その歴史はまたしても更新されることでしょう。

※旧大陸：ヨーロッパ、アフリカ、アジアなど、コロンブスによるアメリカ大陸到達以前にヨーロッパの人びとに存在が知られていた地域



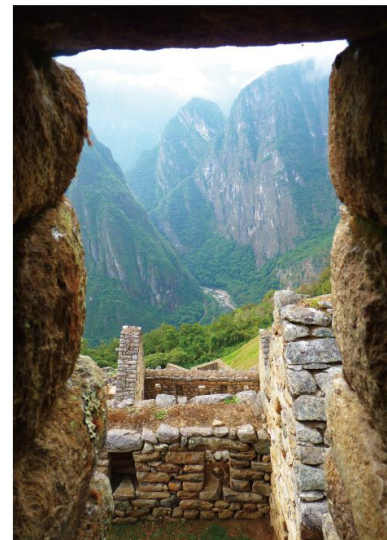
遺跡と自然が調和した唯一無二の地

マチュピチュは、インカ帝国の中の聖なる巡礼地だったのではないかと考える有力な説があります。確かにマチュピチュには、神殿や祭壇と思える場所が数多く残っています。でもそれ以上にこの地が「巡礼地だったのでは？」と思えるのは、マチュピチュ遺跡を見下ろす、この地点に立った瞬間に感じることでしよう。

人間が造った構造物と3,000メートル級の山々をもつ壮大な自然が、渾然一体と溶け合っていて、完璧なる調和を作り出しています。これほどまでに完璧なハーモニーを見せる場所は、世界に類を見ないものです。マチュピチュ遺跡は、ユネスコの世界遺産にも登録されていますが、これは「世界複合遺産」*として登録されている数少ない場所のひとつです。マチュピチュにたたくみ、谷底から吹いてくるアンデスの風に吹かれていると、古代の人びとと世界観や宇宙観を感じることができて、神秘的な気持ちになります。

考古学とは面白いもので、発掘によって土の中から出てきたものによって、今日の常識が明日にはがらっと変わってしまうことも多々あります。ですが、マチュピチュを訪れて個人として何か感じるものがあつたならば、その感覚や印象には、正解も不正解もありません。ぜひあなただけのマチュピチュを見つければ、ペルーにお越しください。

※ユネスコの世界遺産は大きくわけて、「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」の3つに分類されます。複合遺産は、文化遺産と自然遺産両方の登録基準を満たすもので、世界遺産全1,154件のうちわずかに39件と数少ない貴重な遺産です。（2021年8月時点）



「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

中国 深圳
発展を遂げる都市に残る歴史ある遺跡「南頭古城」



モンテネグロ コトル
フィヨルドの深部にたたずむ美しき城塞都市



米国 ニューヨーク
自由の女神が出迎える全米一の大都市



タヒチ パペーテ
自然豊かな南洋の楽園で育まれた伝統にふれる



香港
街角のにぎわいが心地よい華やかな大都会



イタリア トリエステ
イタリア北部に花開いたオーストリア文化にふれる



パナマ クリスタバル
太平洋とカリブ海をつなぐ壮大な運河の玄関口



タヒチ ライアテア島
神秘的な文化と自然に開かれた豊かな島



シンガポール
多様なルーツと最先端が交わるアジアの交差点



スロベニア コペル
紺碧のアドリア海に面した歴史あふれる港町



ペルー カヤオ
インカの失われた都市 空中都市・マチュピチュへ



米国 カフルイ [マイウ島]
マイウ島の海の玄関口 神秘に満ちた火山の島へ



スリランカ コロンボ
インドの南東に浮かぶ「光り輝く島」の中心都市



クロアチア スプリト
古代ローマの宮殿跡に築かれた世界遺産の旧市街



チリ イースター島
謎多き巨像に護られた美しき絶海の孤島



米国 ホノルル [オアフ島]
自然も文化も贅沢に味わえるビーチリゾート



エジプト ポートサイド
広大な砂漠にたたずむ悠久の古代文明と出会う



ボルトガル リスボン
大航海時代の栄華が薫る美食の都へ




ギリシャ サントリーニ島
三日月型の島を彩る青と白のコントラスト



スペイン ア・コルーニャ
遙かフランスから続く「巡礼の道」の終着地へ



ギリシャ ビレウス
無数の古代遺跡と共にある街はまるで歴史博物館



アイスランド レイキャビク
北欧の島国で神秘的に満ちた地球の息吹を体感する



パシフィック・ワールド号でゆくピースポート地球一周の船旅 2024年8月 Voyage118

横浜発着108日 2024.8.16(金)~12.1(日) 神戸発着108日 2024.8.17(土)~12.2(月)

日程		寄港地	
8.16 金	出航 午後	横浜	
8.17 土	出航 夜	神戸	
8.21 水	入港 午前 出港 夜	深圳	中国
8.22 木	入港 朝 出港 午後	香港	
8.26 月	入港 午前 出港 深夜	シンガポール	
8.31 土	入港 朝 出港 夜	コロンボ	スリランカ
スエズ運河通航			
9.11 水	入港 午後	ポートサイド	エジプト
9.12 木	出港 深夜	サントリーニ島	
9.14 土	離泊 朝 発 夜	サントリーニ島	ギリシャ
9.15 日	入港 朝 出港 夜	ビレウス	ギリシャ
9.17 火	入港 午前 出港 午後	コトル	モンテネグロ
9.18 水	入港 午後	トリエステ★	イタリア
9.19 木	出港 深夜	コペル★	
9.20 金	入港 朝 出港 夜	コペル★	スロベニア
9.21 土	入港 午前 出港 夜	スプリト★	クロアチア
9.26 木	入港 午後 出港 夜	リスボン	ポルトガル
9.28 土	入港 朝 出港 夜	ア・コルーニャ	スペイン
10.1 火	1回目のオーロラチャンス		
10.2 水	2回目のオーロラチャンス		
10.3 木	3回目のオーロラチャンス		
10.4 金	4回目のオーロラチャンス		
10.5 土	入港 朝 出港 夜	レイキャビク	アイスランド
10.12 土	5回目のオーロラチャンス		
10.12 日	入港 朝	ニューヨーク	米国
10.13 月	出港 深夜	ニューヨーク	
10.19 土	入港 午前 出港 早朝	クリスタバル	パナマ
10.20 日	パナマ運河通航		
10.24 木	入港 午前	カヤオ	
10.25 金	停泊	カヤオ	
10.26 土	停泊	カヤオ	
10.27 日	出港 深夜	カヤオ	
11.2 土	離泊 朝 発 夜	イースター島	チリ
11.11 月	入港 朝 出港 夜	パペーテ	タヒチ
11.12 火	入港 午前 出港 夜	ライアテア島	タヒチ
11.19 火	入港 朝 出港 深夜	カフルイ [マイウ島] ★	米国
11.20 水	入港 午前	ホノルル [オアフ島]	米国
11.21 木	出港 午後	ホノルル [オアフ島]	
12.1 日	離泊 朝	横浜	
12.2 月	離泊 午後	神戸	

多様なニーズに合わせて選べる船室の数々

プライベート空間でも海を身近に感じられる、海側に面した船室を豊富に備えたパシフィック・ワールド号。旅の目的に合わせて、自由にお選びいただける船室設定です。



ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、ランダーポートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考へ、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程・旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースポートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく全て旅のイメージです。
- オーロラは自然現象のため、気象条件などにより観測いただけない場合がございます。
- イースター島では原則自由行動はできません。後日発表のオプションツアーにご参加ください。
- 横浜港乗船の方は神戸港にて、また神戸港乗船の方は横浜港にて一時下船ができません。
- ご自宅から集合・解散地等発着港までの交通費は含まれません。

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00~	4:00~	6:00~	8:00~	12:00~	18:00~	23:00~
深夜	早期	朝	午前	午後	夜	深夜